

★★★ Library Eye 2021 ★★☆

第13号 2021年4月1日(木)

発行元 明星中学校・高等学校 図書館



【 極上の静けさを図書館で 】

中1・高1の保護者の皆様方、お子様方のご入学、おめでとうございます。本校の図書館は、中高の学校図書館としては屈指の蔵書数約85000冊を擁し、日々、多くの生徒が訪れ、読書や学習活動に励んでいます。



学校図書館は「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持ち、新学力観に基づく主体的・対話的な探求型学習の拠点として、その重要性は高まる一方です。

図書館の今日的役割として、もうひとつ忘れてはならないのが、子どもたちの心の《居場所》の提供です。昼夜休みや放課後に、子どもたちが自由に好きな本を選び、好きな椅子に座り、あるいは深紅のラグマットに寝ころび、こころゆくまで読みふけるという体験は、お子様の精神的な成長にとって欠かせないものと言えるでしょう。本校の図書館は、ハリーポッターにも出てくる王侯貴族の書斎を思わせるような雰囲気を湛えた、ファンタジックな「異空間」を提供しています。

アメリカ合衆国のオバマ元大統領は「我々は親として、教育者として、子どもたちが夢を実現するチャンスを与えるべく、子どもたちに読書への愛を植えつける責任がある」と語り、イギリスのプレア元首相も「7歳の子どもの読書量がイギリスの20年後を決める」と、早い時期からの読書の重要性を力説しています。

【 楽しい読書へのアプローチ】

近代細菌学の祖とされるルイ・巴斯ツールが次のような言葉を残しています。
「1本のワインボトルの中には、すべての書物よりも多くの哲学が詰まっている」
そのワインのひと粟のように味わい深い言葉を語る女性がいます。

三澤彩奈さんは、山梨県勝沼市で4代続くワイン醸造所の長女として生まれ、その後継者となるべく入社した際、父親から言われたのが「地獄へようこそ」という言葉でした。三澤さんは、当時のことを振り返って、こう言います。「まさか、と思ったけど、本当に地獄のような日々」で、繁忙期には、蔵に寝袋を敷いて2~3時間ほどの仮眠しか取れず、風呂は3日に1度、食事は1日1食。そこまで働いても海外の販売店に「日本のワインはいらない」と拒絶されたり、アポイントメントを無視されたりと「何度も心が折れそうになった」と言います。

それでも愛する甲州(葡萄の品種)を何とか世界で認めてもらいたいと土作りからやり直し、ワインに心を傾けた結果、2014年、世界最大のワインコンクールで日本初の金賞受賞という快挙を達成。以来6年連続で金賞を受賞するに至りました。

三澤さんは、ワインの伝道師として舌や嗅覚の感受性を繊細に保つために、コーヒーやチョコレート、カレーなどの刺激物は、いっさい口にしないそうです。その仕事に対する姿勢は「ワインは自分を写す鏡。作り手の性格や意思のすべてを反映する」という言葉によく表れているのではないでしょうか。

固い荒地から豊かな収穫は望めません。お子様方も、ジャンルに関係なく多くの本(新聞)を読むことで《心》を耕し、社会問題についての意識を高め、現在、重要視されている「見えない学力」を育てていくことが大切と言えるでしょう。そして、図書館は、好奇心を持って「学び続ける力」を育てる場でもあるのです。



【 明星中高図書館へようこそ！】

ご入学、ご進級、おめでとうございます。保護者の皆様に図書館を知ってもらいたいと思い、明星図書館をアピールしながら、利用方法などを紹介します。

ポイント①木製書架と天井まで埋め尽くされた本が生み出す重厚な雰囲気。中高図書館のイメージを超えたシックで暖かな空間は学校内のお気に入りスポットの一つとなるでしょう。ポイント②豊富な蔵書数。和書は約67,000冊、洋書は約18,000冊あり、毎年1,500冊以上の本を受け入れています。ポイント③話題本や新刊本が充実。人気の映画やドラマの原作本、各賞ノミネート作品など、公立図書館ではリクエストをしてもなかなか借りられない本が、すぐに借りられます。原作本と文庫は低書架に集めて、手に取りやすくしています。ポイント④参考書や勉強法などの本が豊富。"生徒用"としてコーナーを設けています。参考書は多くの人が利用できるよう、延長貸出はしていません。ポイント⑤多種多様な雑誌とコミック。雑誌は41タイトル、コミックは歴史や古典、科学など学習漫画を中心に揃えています。『王家の紋章』『ドカベン』など保護者の皆様にもお馴染みのコミックもあります。書架の前はカーペットが敷いてあり、靴を脱いでリラックスできます。ポイント⑥様々な企画展示を実施。月毎に話題や季節にそった企画を考え、入口近くなどに展示しています。ポイント⑦コーナーが多彩。本は背ラベルに貼ってある請求記号順に並んでいますが、テーマでわかりやすいように、SDGs・小論文・新書・絵本など専用のコーナーを設けています。ポイント⑧自習や読書に快適な環境。100席近い自習席があり、特に眺めの良い窓際のキャリル席は人気です。ポイント⑨楽しみな行事企画。七夕、ハロウィン、クリスマスなどの飾りつけを行っています。ポイント⑩本のリクエストができる。館内と職員室前廊下にBOXを置いて、リクエストを受け付けています。その他、長期休暇も開館、木製椅子がある、可愛いソファー、観葉植物がたくさん…などアピールポイントはありますが、今回はこのくらいで。

開館時間は通常8時30分~18時。貸出は1人5冊まで、期間は2週間です。図書館担当の川辺靖先生と司書3名がお子様の来館をお待ちしています。

【 2020年度 ベストリーダー賞 受賞者発表！】

前号でお知らせしたベストリーダー賞を発表します。中学の部は新2年生がベスト3を独占しました。第1位 友野 竜之助さん(104冊)、第2位 松川 果蓮さん(102冊)、第3位 高丸 記佳さん(92冊)。高校の部の第1位は新2年生の高木 彩夏さん(42冊)、第2位と第3位は新3年生の浅岡ひいろさん(41冊)、十時 耀さん(40冊)です。受賞した皆さん、おめでとうございます！

【 新書とは？】

2021年の新書大賞(中央公論社主催)に『人新世の「資本論』(斎藤幸平・集英社新書)が選ばれました。1年間に刊行された新書の中から、"最高の一冊"を選ぶ賞で、過去には『バッタを倒しにアフリカへ』(前野ウルド浩太郎・光文社新書)、『ルポ貧困大国アメリカ』(堤未果・岩波新書)、『生物と無生物のあいだ』(福岡伸一・講談社新書)など、図書館でもよく借りられている本が大賞を受賞しています。

ところで、「新書」とは何でしょう?"新書=新しい本"ではありません。本の大きさを指す言葉で、B5判よりやや小型の新書版(105×173mm)の本のことです。ちなみに新しい本は「新刊」と呼びます。

図書館では中高生にも読みやすい「岩波ジュニア新書」と「ちくまプリマー新書」を定期購読しており、毎月2~4冊の新刊が入ってきています。また、小論文対策用や『スマホ脳』(アンデシュ・ハンセン・新潮社)や『ケーキの切れない俳句少年たち』(宮口幸治・新潮社)など話題になった新書も数多く取り揃え、"新書コーナー"にまとめて並べています。新書の多くは「ノンフィクション」です。内容も分量も入門編的で手ごろなので、小説やコミックの合間にでも読んでほしいです。新書コーナーへ Go!!

また、新書より分量が少ない本(製本された冊子)のことを「ブックレット」といいます。図書館前書架に「岩波ブックレット」を配架していたのです、今月から館内中央に移動しました。様々な分野の第一人者が簡潔にまとめた本なので、こちらも是非手に取ってもらいたいです。展示もしています!!

